

教員のみなさまへ

「ゼミ活動等を対象とした学生向けループリック」活用の手引き

法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター

はじめに

法政大学教育開発支援機構FD推進センターでは、個々の教員の教育やFD活動を支援するためのツールとして、「ゼミ活動等を対象としたループリック」（以下「ループリック」という）を作成しました。ここでの「ゼミ活動等」とは、ゼミ・演習などにおける学習活動を指します。ゼミ活動等では、グループ・ディスカッションやグループ・ワーク、プレゼンテーション等の形式を組み込むことが多いため、学生は、専門知識に加えて、能動的で主体的な学びを通じたさまざまな能力を涵養することができます。これを支援し、涵養された能力を教員ないし学生が確認するためのツールとして、ループリックを提供します。

このループリックは教員のみなさまに使用を義務付けるものではありません。あくまでもご自身の自主的なFD活動の一環として、ゼミ活動等において使用して頂くためのものです。ループリックは雛形（テンプレート）としてエクセルファイルで提供しますので、ご自身で内容を取捨選択し、自由に修正・加工して使用することが可能です。そのための情報を以下にお示ししますので、これらを参考にして頂きながら、授業での評価や学生へのフィードバック等において是非ご活用ください。

1. ループリックとは

ループリックは評価指標と評価基準によって達成水準が明確になることから、通常のテストでは評価が困難な「思考・判断」や「関心・意欲・態度」、 「技能・表現」の評価に

向くとされています。これまで、講義や実験など、定量的な評価が容易であるものについては、学内外でさまざまなルーブリックが作成されています。今回は、ゼミ活動等を対象として、特に教員側から学生へ、評価する「観点（学習内容）」とその「評価基準」を伝えることを主眼にルーブリックを作成しました。各「評価基準」の欄には、目安としてどの成績評価に該当するかをレターグレードで記載していますが、ルーブリックの使用目的は各教員に委ねられていますので、成績評価を目安にしない場合は、前述の通りこの文言を削除いただいてもかまいません。「評価基準」は、各「観点」の達成度を視覚化した達成基準であるご理解ください。

ルーブリックは、教員から受講生への評価基準の提示に加えて、教員自身の評価基準の確認、受講生の自己評価、そして教員からの評価・提言、受講生からのフィードバック（教員のふりかえり・気づき）等、様々な目的に用いることが可能です。一般的な講義などの学習内容に加え、意欲、運営活動など、ゼミ活動等に特有の観点が含まれており、教員・受講生両者がこれらの評価基準について理解しやすいよう定量的な指標・尺度を示していますので、ご自身の使用目的にあわせてご活用ください。

2. ルーブリック使用の有用性

○教員が授業での学びの内容を客観的に評価できます。

- ・ゼミ活動等で評価対象となりうる学習内容・活動内容を「大項目」として設定し、さらに各大項目に含まれる評価基準として「観点」を示してあります。
- ・各観点の選出に際しては、講義などと比較して「過程（変化・向上率）」も評価しうるゼミ活動等の特性を踏まえました。「教員の成績評価をサポートするもの」という立ち位置で、従来は評価が困難である場合もみられた「学生が取り組む姿勢」なども観点到り込み、それぞれの評価基準の案を示しています。
- ・各観点に対して採点基準例が設定されていることから、授業開始前に設定した各基準に対して明確に採点することが容易になります。これにより成績評価の一貫性と公平性が確保されることにも繋がります。
- ・また、受講生の学習状況も観点ごとに把握でき、個別に学習内容を指示することも容易

になります。

- ・各ゼミ・演習等の学習・活動目標などに応じて適宜観点を選択して頂き、評価基準も変更して使用して頂ければ幸いです。

注) 示されている評価基準は、あくまでも「観点の一つ」であるため、それらの個別の評価を授業全体の成績にどのように用いるかは各教員の判断に委ねられます。

○授業で学ぶ内容を学生に客観的に提示できます。

- ・ルーブリックは、テストやクイズ、レポートなどでは定量化しにくい観点について、学生にその評価基準を提示できることを念頭に作成しています。これによって、学生が学習すべき内容や求められているレベルを理解しやすくなり、具体的に活動内容も明確化できると考えています。
- ・例えば、グループ活動やプレゼンテーション活動の前にルーブリックを配布することで、それらの活動において教員がどのような活動を求め、どういう点を評価しているかが明確化されます。具体的な作成物やプレゼンテーション内容だけでなく、教員が「どのような活動を期待しているのか」という授業内での活動の方向性や「何が達成できれば高い評価に至るのか」という観点を学生に提示することができます。
- ・ルーブリックに記載されている全ての観点について評価すれば良いというわけではありません。このルーブリックは「雛形（テンプレート）」としての提案であり、先生方ご自身の裁量で評価内容や評価基準を改変・修正した上で使って頂くことで、その有用性や利便性が高まると考えています。ルーブリック自体が自由度の高いものですので、ご自身の都合が良い形に適宜カスタマイズしてご使用頂ければ幸いです。

注) ルーブリックによる評価自体は各観点の評価となりますので、「成績評価を行う上での基準の一つ」という位置づけで各観点の評価を用いて下さい。

生の自己評価」と「教員による評価」の相違点や、ゼミでの活動や学習内容で解決すべき課題が明確化しやすくなります。

- ・授業の特性上、ゼミ・演習などの授業では学習内容・評価基準を定量化しにくい観点もあります。しかし、ルーブリックにあるような評価基準を明示することで、受講生側が授業において「何を求められているのか」、「どういう能力が必要なのか」を容易に理解・気づくことができ、教員と受講生の相互理解が高まりやすくなります。

注) 自己評価を行わせると、過大評価する学生、過小評価する学生の両者が存在するため、教員側がそれらの自己評価をどのように勘案し指導していくのかという点については、担当教員の判断になります。

3. Q&A

○ゼミに複数学年の履修者がいて、評価する観点や習熟度などが異なるのですが、どのようにルーブリックを使用したら良いのでしょうか？

→今回ご提示したルーブリックの大項目や観点は、授業の目的に応じて自由に選択して頂く事ができます。そのため、学年ごとに授業で求める学習内容を選択したルーブリックを作成した上でご使用頂ければ複数学年に対しても対応できます。

○授業支援システム等を使用してルーブリックを運用することはできますか？

→現状では、ルーブリックを電子ファイルでお示しするに留まっており、受講生の学年や学習・活動内容に応じてルーブリックの観点の選択や評価内容の修正等を行いたい場合には、ご自身で作業をして頂く形になっております。今後、先生方から多くの要望があればシステム化も検討していく予定です。

○各観点の評価は、実際の成績に対応させなくてはならないのですか？

→ルーブリックでお示ししている観点は、ゼミ活動等において、教員の成績評価を助けるもの、さらに受講生の学習内容理解を促進するものではありますが、その扱いについては授業ごとに異なっても問題ありません。例えば、シラバスにおいて「授業における態度やグループ活動への参画状況（50%）」という成績評価基準が示されている場合、「態度」や「参画」を評価する観点を含めたルーブリックで評価できます。しかし、観点ごとの評価をそのまま加算する、または観点ごとに重みづけした上で評価に用いるなどのように、授業の成績にどのように連動・反映させるかは教員に委ねられています。また、成績はテストやレポート課題などの得点のみで評価する授業であっても、その過程において受講生に対して「この授業で行うテストやレポート課題を遂行する上で必要となる能力（観点）」として、成績評価に直結しない形で使用して頂く方法もあります。

4. 使用例

いくつかの授業で実際に使用して頂いた際の事例を以下に示します。

A 先生：授業の初回にルーブリックを配布し、ゼミで求める活動とその評価について説明した。さらに、3回のグループによる調査と発表を行うごとに各活動で受講生に求める活動を示したルーブリックを作成して配布し、授業内の各活動に対して求める内容を教員側から提示した。

B 先生：3年、4年で構成して行っているゼミにおいて、学生向けルーブリックを実施した。この授業は、主に4年生の卒業論文作成に関する発表の場として実施しており、現3年生は、主にプロブレム/プロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）の研究の延長と先輩方の研究の発表の仕方を聞くような位置づけで運営している。4年生が研究発表を行い、その内容についてディスカッションを行った後、ルーブリックを用いて4年生に自己評価させ、それに対して3年生に他者評価を行わせた上でディスカッションを行った。

C 先生：半期の演習において、授業内容に関する10の観点からなるルーブリックを作成して1週目に配布し、評価の観点を提示した。その後、1週目で使用した用

紙を再度 4, 8, 13 週目に繰り返し配布して自己評価を行わせて提出させた上で、それに対する教員側からの評価を行いフィードバックした。最終週に半期の授業全体の評価として、観点ごとに教員の評価を行い返却した。

D 先生：グループ活動終了後、授業内で学生に観点ごとの自己評価を行わせて後、グループ内で相互に評価させた。さらに、各評価を他グループにも回し、用紙の裏に肯定的なコメントを記入した上で本人に返却した。

これによって、主観的評価に加えて、客観的な評価も確認することができ、授業内での学びの状況をより把握できたとのコメントが寄せられた。

E 先生：3 年生のゼミで、学期末に学生の自己評価のためにループリックを使用した。当該ゼミの目的に合う観点として下記のものを選択し、それぞれの項目の説明を行った後、学生に回答させた。回答後、それらに全員で目を通して感想を伝え合うことで、学生自身の気づきとなったほか、教員が学生に伝えたいことの整理もついて、役に立った。

【課題発見・分析能力】	研究テーマの設定
【課題完遂能力】	課題への貢献度、業務完遂能力（計画実行）
【情報管理能力】	文献（情報）検索、情報整理
【コミュニケーション力】	ディスカッション、意見を聴く、批判する、伝える、コミュニケーション
【スケジュール管理能力】	（作業の）スケジュール管理
【チームワーク力】	協調性
【チャレンジ精神】	挑戦的要素
【ファシリテーション力】	ファシリテーション
【リーダーシップ力】	リーダーシップ

F先生：3，4年生合同のゼミにおいて、課題作業の得点だけでなく、学年を超えた積極的なゼミ活動を評価する目的でルーブリックを作成した。活動において学生に求める活動を明示することを目的に、関連する観点を5つだけ選択してルーブリックを作成して用いた。グループ活動の区切りごとに自身に評価させ、それに対して教員からのフィードバックを行ったところ、学生から「どういった活動が求められているか理解できた」とのコメントが寄せられた。

大区分	観点	観点の説明 ※観点ごとに、その内容を説明する。	1 ※D（単位取得不可）に該当する 評価基準を示す		2 ※C（単位取得基準）に 評価基準を示す	
コミュニケーション力	ディスカッション	発言力、コミュニケーション力の活用ができる	発言をしない。		発言はあるものの、議論の流れ、議論を進めるような発言ができない	
	意見を聴く	他者の発言を「傾聴」ができる	相手の意見を尊重せず、自分の考え方や意見を押し付ける。		相手の意見を聞くことができる。	
	批判する	「クリティカルシンキング」ができる	物事を批判せず、自分で考えようとしな		情報や人の意見をが正しいか考	
	伝える	物事への理解や説明する能力を有している	事象を説明することができない。		事象を説明することができる。	
チームワーク力	ゼミ運営（主体性）	積極的にゼミの様々な活動に参加できる	ゼミ関わる気が全くなく、できる限り何も		ゼミにあまり関わりたくなく、協力しない	

図 実際に用いた短縮版のルーブリック

以上